

令和元年度 史跡古津八幡山遺跡保存活用計画推進委員会（通算第5回）・

古津八幡山遺跡確認調査指導部会（通算第7回） 委員意見

日 時 令和2年3月

※会場での委員会及び確認調査指導部会は中止し、委員やオブザーバーに資料を送り、意見を求める形で、委員会の開催に代えた。

**委員**

小林達雄委員・石川日出志委員・橋本博文委員・菊地芳朗委員・石黒立人委員・川上真紀子委員・齋藤純子委員・朱雁委員・高橋郁子委員・中山利之委員・内山英紀委員

**指導・オブザーバー**

新潟県教育庁文化行政課 滝沢規朗氏、  
新潟県埋蔵文化財センター課長 沢田敦氏

当日次第（●：委員 ○オブザーバー）

（1）保存・管理関係

① 2019年度 古津八幡山遺跡確認調査の報告

- よくやっていると思う。努力に敬意を表す。
- 初めて現地を拝見したが、これだけ貴重な遺跡がこの地区にあることは、子どもたちにとっても誇りになると思う。子どもたちにも機会があるごとに伝えていきたいと思う。
- 大型竪穴（SI1）の概観をつかまえることができた調査であったと評価する。規模や形態、SI465との新旧関係もつかめ、大きな成果であったと思う。また、東側調査区では、多くのピット群が検出された。傾斜転換ラインから下にはピット群が広がらないことが明らかになったが、残念なことにピット群の性格が分からない。覆土や掘り方などの共通点などを比較して、小型の小屋のようなもの、あるいは柵列のようなものが、復元できないか、再度検討してみてもはどうだろうか。SI1の性格を考える上にも、周囲の状況を検討することは価値あることだと思う。
- 木立の中の調査で大変そうだが、貴重な報告であった。2019年の調査部分は地図で見ると川が近いようだが、かつては川の流れはどうだったのか。川の水を利用したりしていたのだろうか。興味深い。
- SI1の建て替え前は、不整楕円形で、建て替え後は楕円形でなく、「胴が張る隅丸方形」プランということで、「方形」を意識しているのか。SI465の炉跡の土壌サンプリングをしているのか。していたら、フローテーションはどうなのか。東京都新宿区下戸塚遺跡の地床炉などで良好な成果を得ている。切り合い関係だけでなく、SI465の土器の年代はいつごろか。尾根東側は、柵列だけでなく、「環濠も確認できない」を追加してはどうか。
- SI1は、直線的な辺がほぼないので、隅丸方形というより円形基調といった方がよいように思う（ただし、他の委員に隅丸方形と認める方が多ければ、こだわらない）。一方、SI1(古)→SI1(新)→SI465の順に方形基調が強まっていくのは興味深い。古津八幡山遺跡全体の竪穴建物形状の変遷と連動している可能性はあるのだろうか。
- （ここ2年ほど調査を見ていないため質問だが）「独立棟持柱をもつ掘立柱建物」は、柱穴の大きさがあまり揃っていないように見えるが、そのように認定した根拠を教えて欲しい（次回会議の際でも結構）。大型竪穴建物と掘立柱建物が確実にこの場所で共存したとなると、遺跡の評価を大きく左右する可能性があるため聞いておきたい。
- 用語の選択①「住居」を「建物」に変える。②「SI1」については、「建て替え前の壁溝プランは

不整な楕円形」を「多角形」に変更する。

- 大型建物跡の SI 1、SB 1 や SI401、SI465 の性格はどのように考えているか。現時点で不明な点があるとすれば、今後どのような調査・研究が必要なのかを整理し、今後の調査計画に反映する必要がある。追加指定を目指すのであれば、2019 年度調査区のあるエリアの性格を明確にする必要がある。例えば、SI401 は SI 1、SI465 のどちらと並行なのかによって、描かれるこのエリアの集落の姿が変わってくるが、その辺の検討はされているのか。SI 1、SB 1 は県内外の類例との比較検討が喫緊の課題であり、報告書作成段階でやっているようでは手遅れとなるおそれがある（課題が見つかったも、調査できないため）。追加指定のためには、これまでの成果と今後の課題を文化庁と共有しておく必要がある。
- 各柱穴の認定については、慎重に検討していただきたい。また、出土土器から想定される各遺構の時期比定についても、検討していただき、理化学的な分析を加味することも念頭に置く必要がある。さらに、堅穴床面付近の土壤水洗も有効と考えている。
- SI 1 を床面まで掘り下げたことで、住居構造が明確にできた点は大きな成果であり、良い調査法判断であった。SI 1 出土石器のうち、磨製石斧が定角式であること及び石鏃 4 点がともに平基式であることの 2 点は、縄文時代遺物の混入の可能性を考慮しておくべきではないか。

## ②2020 年度 古津八幡山遺跡確認調査の計画

- 引き続き推進してほしい。
- SI 1 の性格を想定した調査が必要だと思う。工房、集会室、首長の住居、祭礼場など仮説を立てて、それぞれの仮説の証拠を求めていくのはどうだろうか。当面炉の有無によって、かなり絞り込みは可能だと思うが、鍛冶跡とした場合の調査のあり方も考えてみてはどうだろうか。
- 北部の調査も排水溝の有無など期待している。
- SI 1 の柱の配置は、木の根が大変のようだが、地主の承諾を得て慎重に調査して欲しい。SI 1 の火処の検出は、推定される位置の土壤サンプリングとフローテーションを実施して欲しい。尾根北側は、遺構の出方によって、北半の平坦部を西側に東西に拡張する。囲郭施設の確認もして欲しい。
- SI1 の十字ベルトを残して掘削することに賛成。ただ、南東区画の大きな切り株の南側に未掘部分を残す予定であるように見受けられるが、あまり意味がなく、柱穴配置を検討する際の障害になる恐れがあるので、ここは掘削した方が良いのではないかと。また、当初の地区割りから残る、堅穴建物を斜めに通る南西—北東方向のベルトも、地表からの土層を確定させ、記録を取った後は、取り外して良いと考える。
- SI465 について、地床炉が出ているので、14C 測定を行っていないのであれば行った方が良い。また、もしも SI1 から炉が検出された場合も 14C 測定を行った方が良い。
- 残り 2 ヶ年でひとまず「ケリ」をつけるとのことだが、物理的に 2020 年度に 5 本のトレンチ掘削は可能なのだろうか。中途半端に終わるのは宜しくないなので、予算や調査期間を念頭にトレンチの本数や長さを現実的なものに検討した方が良いように思う。
- SI1 のさらに北側で掘削予定の 4 本のトレンチについて、平坦部の中心を外れているように見受けられるので、より遺構が確認できると予想される場所に変更した方が良いのではないかと。思う。
- 2020 年度以降の調査計画は、上記の成果・課題を踏まえて行う必要がある。2020 年度調査予定のトレンチについては、遺構の有無または遺跡範囲の把握が目的と考えられるが、2019 年度調査区周辺の状況把握をどこまで行うかを含む全体的な計画、調査のビジョンの中で、優先順位を明確にして調査を進める必要があるし、その点については、文化庁との認識の共有も必要である。
- 大型堅穴建物については、土層ベルトを残して、他はすべて床面まで下げてはどうだろうか。SI465 もほぼ同じ手段でも良いと思う。
- 柱穴は半裁を原則として、極力全部着手して、柱穴配置を明らかにすべきだ。

- SI 1 北半の立木を伐採しての調査は必要である。2019 調査区北方の尾根、古墳北方の尾根筋へのトレンチは必須である。ともに適切な判断と思う。

## (2) 整備関係

### ① 復元竪穴住居茅葺屋根の葺き替えについて

### ② 支柱などの補強工事について

- 子どもたちにとって、自分の目で見えて「なるほど」「分かった」という思いになるのはとても大切なことだと思う。ぜひ、整備を続けて欲しい。
- 今後竪穴住居の保存については、かかる費用と活用のバランスを持って取り組んでほしい。朽ちていく茅葺き屋根に自然の衰退が感じられ学ぶべきものもある。
- 立派な住居が完成し、「新築」はこのようだと示すことができるようになったと思う。
- 「見学会」は良い取り組みだったと思う。難しいかもしれないが、市民も実際の作業に参加出来たら関心もさらに高まるのではないだろうか。材料はどこから来たのか、葺き替えにどのくらい期間が必要だったのかなど簡単な情報が住居周辺に明示されているとより関心も高まると思う。
- 「屋根葺き替え工事」は動画記録などがあるのだろうか。もし、記録があったら、ネット配信などをしてみると話題になりそうだ。
- (復元竪穴住居茅葺屋根の葺き替え工事)のビデオは撮ってあるのか。あれば、ガイダンス施設で流して欲しい。
- 「無害・無色・無臭」というが、どんな薬品を使うのか。
- 史跡の修復の見学は良い試みだと思うが、見学会でどのような説明を行い、どのような反応があったのかなどについて資料が欲しかった。また、今後の計画はどうなっているのか知りたい。
- 文化庁との協議を経て、着実に実施することを希望する。
- (修復)工事見学は大変良い試みだと思うが、2020年もぜひ実施の方向で検討していただきたい。
- 適切な措置であったと考える。

## (3) 活用関係

### ① 2019 年度の活用関係の報告

#### a. 入館者数

#### b. 利用団体の種別など

#### c. ボランティア活動

- ボランティア活動「史跡古津八幡山遺跡の植生図作成」
  - ・内容：朱雁委員を中心に、古津八幡山遺跡で石澤先生から教えて頂いた古津八幡山遺跡周辺の花・実の種名・位置などについて再確認した。八幡山植物写真なども既に石澤先生により作成し、まとめて頂いた。
- 小・中学校の子どもたちについては、遠足、社会見学、総合学習などの機会に見学できればよいと思うが、学校現場の課題として、まとまった時間の確保や貸切バス(近年の運賃の高騰が激しいので)の費用面がある。
- 入館者数については、新津美術館の催し内容に連鎖した動きがみられるとのことだが、それにプラスして弥生の丘展示館には人を呼び込む魅力がある独自の活動が求められる。
- 特別支援学校や支援学級にも今まで通り誘いの声掛けを小・中学校同様に続けて頂きたい。
- ボランティアの受け入れ体制を教えてほしい。
- 八幡山が市民にとって自然観察や健康の為に楽しみながら、古墳を目指して登る親しみある

山であることを願っている。今現在高齢者や山登りに自信のない人にも優しい山道コースがあるのか。

- 入館者数は安定しており、これを維持できるように方針を持つべきだと思う。全市的視野で小学校の利用増を目指す方針はこのまま続けるべきだと思う。一方で、専門的関心のある人々へのアプローチも展示や講演会で続けるべき。そこに若干（中高生）をどう組み込むのかイメージを持つと良いと思う。
- ボランティア活動とあわせて、地元の人々の取り組みも必要である。考古学・遺跡にこだわらず、地域の交流の場としての活用も考えてみたらどうだろうか。
- 個人利用者数の増加は嬉しいことである。潜在的な古代史ファンがいると思うので、ぜひ取り組んで欲しい。
- 他館の影響を受けずに、来館者増につなげていける工夫はされているのか。逆にアニメなどのキャラクターを時期限定で展示の中に入れ込むとか。
- 今年度は市外小学校の利用が少なかったとされるが、市内に制限をしたためか。
- 植生はどこまでが自然で、どこまでが人工か。現在の植生と過去の植生。（・弥生時代の植生・古墳時代の植生の復元（花粉分析・プラント・オパール分析、焼失家屋の炭化物の分析から）、平安時代の製鉄の時期の植生復元（木炭などの樹種同定から）。
- 事業報告に、利用者の姿が見えない。アンケートを実施しているなら、その回答結果、それへの対応などの報告があると良いと思う。
- （aについて）県内のガイダンス施設では、モデルとなる入館者数である。新津美術館の来館者に左右されるような記述だが、相乗効果（美術館のみが要因ではない）と思うので、引き続き、県内のモデルになるような取り組みを望む。
- （bについて）大変すばらしい。中学生への発信を県埋文センターとともに検討できれば良いと思う。
- （cについて）引き続き、積極的な取り組みを望む。県内市町村のモデルとなるよう、うまくいったこと、いかなかったこと等をご教示いただきたい。
- 2019年9月13日に明治大学考古学専攻生19名を引率して見学した分が記録から漏れてしまいましたね。

## ② 2020年度の活用関係について

### a. イベント、企画展、関連講演会など

### b. 市内小・中学校向け配布資料

- 子どもたちが楽しめるあるいは、遺跡等に関心をもてる企画等を期待している。
- 2018年度と2019年度の団体利用状況の数値を見比べると自治会・町内会などコミュニティ関係で利用者が減少しているため、働きかけを要すると思う。
- 4月25日（土）「葉っぱで染めよう」が予定されているが、新緑の季節に何の植物の葉で染めるのか気になる。
- イベントの縮小は残念だが、人員の増強を望む。
- 企画展は維持していただきたい。単に今ある遺跡を見せるだけでなく、解明されていく遺跡の姿を市民とともに楽しめると良いと思う。
- 楽しみにしている。多くの方々に訪れと欲しい。私も可能であればSNS等で発信したいと思う。
- 2019・2020年度もドングリ食に力を入れているが、ドングリが弥生時代の主食のように感じられないか。（「弥生食体験」となっているが）米食だけではないということを主張するためか。
- 「——式土器」をテーマとした展示会・講演会は研究者にはありがたいが、子どもや一般にはどうだろうか。（大切な基礎的な作業ではあるが）「くらし」や地名は、一般にとっつきやすいテーマだ。

- アンケートはないのか。
- 大変良くできた資料になっている。ルビについては個人的には、もう少しふってあっても良いと思うが、こないだの経緯を踏まえているのであれば良いと思う。
- せっかく良くできた資料なので各校においてしっかり活用してもらえるよう、何かしらの「宣伝」（たとえば、校長会に働きかけるとか）を積極的にやってはどうか。
- 個人的には読んでいてとても楽しかった。
- パンフレットということだが、副読本のような仕上がりになっている。小・中学校の先生方の意見を参考に有効な活用を期待している。
- 小学生で歴史を学ぶのは6年生であるため、4～5年生でも理解できる内容を目指すべき。
- その意味で小学生用は、全体的に字が多すぎ、かつ小さい。全体に字数を減らし、かつ最小限の内容になるように再構成すべきである。中学生用のパンフレットの字が少ないのは、違和感がある。
- また、小学生用は基本的に文章が上、絵が下の配置で変化に乏しく見飽きる。文章と絵の場所を入れ替えたり、絵の形を変えるなどの配慮が必要である。ルビをもっと使うべきだ。
- 旧石器・縄文時代の年代について、暦年較正前の数値を使っている。いまや較正年代を使うことが一般化している。
- 小学生用は文字数が多い。
- 表現に冗長なところがある。こなれていない。
- 声を出して読めるものになっていない。
- 何を伝えたいのか、不明確であったり、整理できていない部分がある。
- 小・中学生向け配布資料を作成する際には、対象となる子どもたちの実態を認識したうえで、何を伝えるのかを吟味する必要がある。たとえば、私たちは中学生が理解できる文章を書く時に、中学校の教科書をイメージしがちだが、中学校の教科書レベルを十分に理解している中学生は全体の何%いるのだろうか。中学1年生対象の場合は、小学校5・6年生というように、1・2学年下をイメージして資料を作成する必要があるのではないだろうか。
- 2020年度の体験イベントは、やや弥生色が薄まっていないだろうか。
- 予算の関係から規模の縮小は非常に残念ですが本県も同様である。少ない予算等で、魅力的の検討に敬意を表する。
- 勝手ながら、関連講演会は弥生の丘展示館の周辺で開催すると、参加者がすぐに展示を見て理解がしやすくなる等の利点があるように感じた。
- 特になし。

#### (4) 運営関係

##### ① 2020年度の弥生の丘展示館開館について

- 特に（異議）なし
- 3人の担当者で2ヶ所の施設の企画展示作業には頭が下がる。計画に同意する。年間291日開館。周辺の施設との繋がりもあるが、八幡山一体のことを思うと安心面・安全面から妥当と考える。
- しっかりした展示にするためには必要な休館だと考える。
- 臨時休館は当然だと思う。しっかり告知すれば大丈夫だと思う。
- 新型コロナウイルスの影響も心配。
- 展示館とセンターでの同時開催は、回避するしかけをして欲しい。
- 休館日については、ネットやリーフレットでの事前告知をしっかりやって欲しい。
- 一時閉館はやむを得ないと考えるが、開館したままでの展示替えを検討したかどうか説明が欲しかった。また、臨時閉館をするならば、その周知徹底が必要であり、そうしたデメリットへの対応の説明があっても良かった。なお、展示を含む活用事業の持続可能性を定期的に

確認することが重要だと考える。個人の努力への過剰な依存などは、組織を疲弊させるおそれがある。持続可能性を考慮した、人員配置、役割分担、事業計画が必要である。

- 企画展（2）は、若干異なる展示を2会場で実施するのか。そうであれば、大変新しい試みだと思う。たとえば、県埋文センターや市外の市町村とも連携し、ほぼ同じテーマを県内各地で展示ができれば新しい展開になると思う。
- 同じ担当者がほぼ同時期に企画展を実施するのはとても大変かと思う。臨時休館中やむを得ない。一方で、利用者からの反応が気になる。
- 年2回の「展示・入れ替えのための臨時休館」については、HPでの広報・周知に努めて頂きたい。とくに9月のは来場者への影響が懸念されるので。上記を条件にお認めしたい。